

第1回 松本市中心市街地再設計検討会議 議事録

○ 事務局 藤井総合戦略室次長

それでは定刻となりますので、ただいまから第1回松本市中心市街地再設計検討会議を開催いたします。

本会議は中心市街地のうち、松本駅周辺から松本城までの中核エリアというような呼び方をしていますけれども、そのあり方を議論し、将来に向けた骨太な指針、新たな見取り図を描くことを目的に設置をするものでございます。

皆様のご意見をいただき、中心市街地の再設計・再活性に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお本日、中島委員におかれましては、オンラインでご出席をいただいております。途中30分程度、中座する旨のご連絡をいただいておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、臥雲義尚市長からご挨拶を申し上げます。

○ 臥雲 市長

皆さん、こんにちは。

今回、この中心市街地再設計検討会議を設置させていただきました、松本市長の臥雲義尚でございます。

委員の皆様方には、本当にお忙しいところ、また、お暑い中をお集まりいただきました。さらに言えば、この非常に難しい課題を担っていただく委員の就任を快くお引き受けいただきました。誠にありがとうございます。

改めて申し上げます、この検討会議は、一昨年2月に松本パルコが閉店を発表し、そして、今年4月には井上百貨店が閉店を発表したことが契機となっております。

いずれも来年の2月から3月にかけて、中心市街地で商業・サービスを担ってきた大型商業施設が幕を閉じるわけでございます。

これを街の空洞化のピンチと捉えるのか、それとも新たな時代のまちづくりに向けたチャンスと捉えるのか、どちらに捉えるかによって、松本の未来は大きく変わってくるというふうに考えております。

本日は、この機会をピンチではなくチャンスと捉えて、城下町松本、三ガク都松本の中心であり続けた松本駅前から松本城にかけてのエリアを、市民の皆さんとともに再設計する、再活性することの中心的な取り組みをしていただく方にお集まりをいた

できました。

この中心市街地は、松本市の中心であります、松本市の中心であるということは、中信地域の中心、更には長野県の中心であり、もう一步踏み込んで言えば、東京一極集中の時代であっても、地方都市がこれからも持続可能で、次の世代にしっかりと引き継いでいけるまちづくりの中心、それを 2020 年代にもう一度しっかりと立て直そう、作り直そうという試みでございます。

「松本市は女性と若者に選ばれるまちになろう。そして全ての世代の人たちが一人ひとり豊かさと幸せを実感できるまちをつくっていこう。」ということで、市民の皆さんと取組みを進めております。

ぜひとも、その一番ダイナモとなるエリアを、皆さんとともに新たに作り直す、そして、そのためにはこのメンバーの皆さんだけではなくて、大勢の市民の皆さん、大勢の組織・団体を巻き込んでこの議論を広げていただきたいというふうに思います。

幅広い意見を汲み取って、そして限られた時間ではありますが、濃密な意義深い議論を展開していただいた先に、三ガク都松本のシンカ、そして、市民一人ひとりの豊かさと幸せを実現する、そうした強い意気込みで、私達は今日この場に集まっております。

ぜひとも、赤羽座長を始め、委員の皆様にも、この大きな役割を担っていただくことをお願い申しあげまして、冒頭、私からの挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○ 事務局 藤井 総合戦略室次長

ありがとうございました。

続きまして、本会議の座長を務めていただきます、赤羽眞太郎様からご挨拶をお願いいたします。

○ 赤羽 座長

改めまして、挨拶を一言申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、また、気候が大変な変動をしております暑い中、委員に委嘱をされた皆様方にお集まりいただき、本当にありがとうございます。この会議は、先ほど市長からお話がありましたように、松本市は過去に商都と言われてきた中で、松本パルコ、井上百貨店本店が閉店することとなり、大きく時代は変わってきている中で、設置されたものでございます。

特に、インターネットによる通販が当たり前の時代になりつつある中、「中核エリアで商業やビジネス、住んでいる方々が、本当に安心できるまちとはどういうまちなんだろう。」ということ、委員それぞれがお仕事の上でも担っておられる役割も踏まえながら、検討会議では、親会議として各種団体の皆様から様々なご意見をいただき、また、市民ワークショップなどの場を通じて意見をいただきながら、方向性を見出してまいりたいと考えております。

その中で、市民の皆様のご理解や、ある意味では夢も実現していかないと駄目なんだというふうに思っております。

ぜひ、委員の皆様には、松本市の中核エリアということもありますが、中信地区の大事なポジションである、松本市の再設計・再活性に向けて、多くの知見をいただきながら提言を取りまとめていけるようお願いを申し上げまして、甚だ簡単ではございますが、座長としてのご挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

○ 事務局 藤井 総合戦略室次長

赤羽座長ありがとうございました。それでは会議に移りたいと思います。本日の議題はお手元の次第のとおりでございます。1点目としましては、エリアの課題と現在の取組みから見えてくる今後の方向性について、2点目は、それを踏まえた今後の検討テーマについて、を予定しております。

初回の会議となりますので、会議の目的、現在の取組みや課題などを共有する中で、今後どのような論点、切り口で検討していくのかといったことをご議論いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは要綱の規定によりまして、赤羽座長が議長となり進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○ 赤羽 座長

はい。それではご指名でございますので、お手元の資料に基づきまして会議を進行させていただきます。なお、会議の進行につきましては、山本座長代理をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○ 山本 座長代理

はい。それでは、改めまして、よろしくお願いいたします。

まず、お手元の次第の議題をご覧ください。議題が(1)、(2)とありまして、1つ目が「エリアの課題と現在の取組みから見えてくる今後の方向性について」です。ここ

は、現状がどのようなになっているのかということや課題、可能性も含めて1回整理をして、共通の認識、土台をつくることが目的です。(1)の後に質問等を受け付けますが、事実確認の質問で、本日のメインは(2)というふうに思っております。

この会議は、4回開催できますが、逆に4回しかない中でまとめていかななくてはいけないので、2回目と3回目でかなりぐっとまとめてといいますか、方向性をつけていく形にして、4回目で最後まとめるイメージでおります。

その意味では、今日の1回目の会議が終わった時点で拡散しても構わないと思いますので、議論に当たって必要と思われる要素・ポイントを、箇条書きみたいな感じで構わないので、一度この場を出して、皆さんで共有した上で、議論を進めていきたいというふうに思っております。

早速ですが、議題1「エリアの課題と現在の取組みから見えてくる今後の方向性について」事務局から説明をお願いいたします。

○ 事務局 石井 総合戦略室次長補佐

松本市の総合戦略局総合戦略室次長補佐の石井と申します。事務局を仰せつかっております。よろしくお願いいたします。

それでは資料の説明をさせていただきます。まず、目次の1から5までを説明させていただきます。

時間が限られていますので、目次の2から4につきましては、詳細の説明を省く形でご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは1ページ目、検討会議の設置と提言に向けたスケジュールです。

設置の背景には、松本パルコと井上百貨店の閉店がございます。それから昭和の土地画整理事業から40年以上が経過する中で、改めて、松本駅周辺から松本城までの中核エリアが、新陳代謝の時期を迎えているということがございます。こうした中、改めて松本市の賑わいと活力を生み出す場であり続けるための再設計が必要ということで、検討会議を設置させていただきました。

検討会議の設置目的は、松本駅周辺から松本城までの中核エリアを再設計する、将来に向けた骨太の指針・新たな見取り図を取りまとめていただくこととなります。検討会議では、まちづくりに関わる各種団体との意見交換や、シンポジウム、ワークショップで出されたアイデアやご意見をもとに、議論をいただきたいと思っております。

その上で今年度内に市長に提言いただくことが、検討会議の設置目的となります。

次のページをお願いいたします。今回の中核エリアの範囲です。赤い線で囲っている範囲が松本市の中心市街地と言われる範囲です。そのうち、検討会議で議論いただく中核エリアは、松本駅周辺から松本城までの青い枠で囲った範囲となります。

次のページをお願いいたします。検討会議は計4回の開催となります。各種団体との意見交換は8月から10月にかけて行い、10月にワークショップ、12月にはシンポジウムを予定しています。いずれにしても、今年度末に向けて提言をまとめていければというふうに思っております。

次のページからは、都市構造とその変遷をお示ししています。

6ページでは、エリアの特性を整理していて、中核エリアは、松本市の賑わいと活力を生み出す場として発展してきた、いわばまちの顔となります。

7ページは、交通網の特性を整理していて、松本市は、総合交通戦略において、中心市街地の将来の姿を、歩行者、自転車、公共交通が中心となった交通形態を目指すという方向性を打ち出しています。

8ページは、景観の特性です。松本城周辺では、北アルプスや美ヶ原への眺望保全を目的として高度地区を決定してきた経過があります。また、中央西地区、松本駅の東側の範囲になりますが、こちらは昭和の区画整理事業から40年以上が経過し、新陳代謝の時期を迎えていることから、都市機能の集約化・高度化に向けた検討が必要ということで、市内でも検討を進めているところです。

9ページは、昭和以降の土地区画整理事業等の変遷をお示ししています。黄色く塗られているところが、昭和42年から土地区画整理事業を始めたエリアで、その後、中央西の区画整理事業を行っています。

10ページは、松本駅周辺の建築年別現況になります。当時建設された多くの建物が、改築や建替えの時期を迎えています。右側の凡例にお示しのとおり、昭和56年以前の建物は赤く塗られています。特に松本駅周辺の建物が赤くなっていますが、民間企業の再投資に向けた環境は、非常に厳しい状況にあると認識しています。

11ページは、人口の集中地区と大型商業施設の出店の関係でございます。青く濃いところが昭和45年当時の人口集中地区、薄水色は平成27年時点の人口集中地区ですが、中核エリアに立地するパルコ、井上百貨店は、ともに来年閉店することになっています。

12ページからは、直近10年間の推移をデータでお示ししています。

13ページは、商業サービス業の環境変化です。インターネットでの買物が多くなっていて、中心市街地の商業経営者は、60歳以上の割合が半数の51%という状況です。

14 ページは、空き店舗、空き地、駐車場数に関するデータです。空き店舗率は、全国平均よりは低い数値で推移していますが、空き地につきましては、一貫して増え続けているという状況になっております。

15 ページは、中心市街地の歩行者通行量です。全体の傾向としてはコロナ禍を経て回復基調ですが、今回議論いただく中核エリアの通行量は減少しています。松本駅と松本城を結ぶ通りの通行量も減少しています。

16 ページは、松本駅の乗客数と路線バスの利用者数です。JR 松本駅、松本市の中央部を走る路線バス、タウンスニーカーの利用者数ですが、いずれもコロナ禍前の水準には回復していない状況です。

17 ページは、松本城の入場者数の集計です。こちらは、コロナ禍前の水準まで回復し、外国人の入場者数は令和 5 年度、過去最高となっています。

18 ページからは、人口・アンケート・他都市比較となります。

19 ページは、市全体の人口増減と対東京圏の社会動態をお示ししています。R5 年の人口減少率は県内で 4 番目に低く、社会増は 501 人で県内最多となっています。

一方、対東京圏での社会動態を見ると、10 代・20 代は男女ともに転出超過、特に 20 代女性の転出が多い状況です。

20 ページは、松本市商業ビジョンのアンケート結果です。中心市街地に期待する条件では商業施設が上位に入る一方、課題としては、駐車場・駐輪場、公共交通機関の充実が挙げられています。

21 ページからは、三の丸エリアビジョン策定時に実施したアンケート結果です。令和 3 年度策定時に、まちなかに通学する小中高生 758 人にアンケートを実施しています。お気に入りの場所はどこかを聞いていますが、イオンモールが圧倒的です。

「将来松本で暮らしたいか」という質問では、年齢が上がるにつれて暮らしたいという割合が低下し、分からないが増えている状況です。

松本のまちなか・まちづくりについての自由記述もありますが、「楽しい場所」、「子どもの居場所」、「たくさんの人が訪れる」というワードが挙げられています。

23 ページは、森記念財団が毎年実施している、日本の都市特性評価から見る松本市の特性です。評価が高い指標としては、文化・歴史・伝統への接触機会が多い、街路の清潔さ、休日の人の多さがあります。一方、公共交通の利便性、若手人材の流入、女性就業者割合といった指標は、136 都市の平均よりも低い数値となっています。

24 ページは、地域経済循環図から見た松本市の特徴をお示ししています。域内収支

は103%の黒字となっていますが、生産付加価値額の一部が所得として地元へ落ちず、地域外へ流出している結果となっています。

最後 26 ページでは、エリアの課題と現在の取組みから見えてくる今後の方向性を整理しています。

ページ左側に現状の課題を整理し、真ん中には現在の取組み、右側は強みと検討が必要と思われる今後の方向性を、黄色の枠で 9 つ整理しています。

松本城周辺は、現在、堀の浄化対策や南・西外堀の復元、旧博物館の解体などに取り組んでいますが、更なる松本城の高付加価値化は、検討の切り口の一つになるのではないかと考えております。

中核エリア共通の検討の切り口に、居心地がよく歩きたくなるまちなか空間への転換を挙げています。歩行者通行量が減少する中、パルコ、井上百貨店の閉店を受けて、来年以降、人の流れが更に変化することが予想されます。そうした中で、改めて歩行者優先のまちなか空間への転換が、検討の切り口になるのではないかと考えております。

それから再活性を担うキープレーヤーのネットワーク化。背景としては、商業経営者の高齢化、伊勢町商店街振興組合の解散があります。解散理由には担い手不足ということも報道されておりました。そうした中、再活性に向けたキープレーヤーのネットワーク・プラットフォーム化は一つの切り口ではないかと考えております。

松本駅周辺では、民間企業が新たな投資に踏み出せる環境整備を挙げています。松本駅周辺の建物が一斉に更新時期を迎えるため、そういった環境整備が必要でしょうし、具体的には、松本駅東地区、あがたの森通りからブエナビスタの辺りまでの集積化・高度化は、一つの検討の切り口ではないかと考えています。

また、松本駅周辺の総合交通ターミナル化。こちらは、都市特性評価でも公共交通の利便性の指標数値が低く、現状でも、松本駅とバス利用者がコロナ禍前の水準に回復していない実態もあり、歩行者や自転車、公共交通がシームレスに繋がる総合交通ターミナル化といったものも、検討の切り口ではないかというものです。

それから、女性と若者が集まるハレの場としての都市機能。こちらは、20 代女性の転出超過、松本駅周辺で若者が楽しめる娯楽施設が少ないという課題がある中、ハレの場としての都市機能が、検討の一つの切り口でないかと考えています。その上で再活性に向けたコンセプト、取組みスケジュールも検討のポイントと考えております。

説明は以上になります。

○ 山本 座長代理

はい、ありがとうございます。この会議を進めていく上で、中核エリアの位置づけでありますとか、現状の課題、そして場合によっては強みにもなるいくつかの論点がここに出てきたかなというふうに思います。

この後、実質的な議論をしていきますが、まずは、今ご説明いただいたところで、議論でもいいですし、ここに足りないものがあるのではないかなというようなことでも構いませんので、今の説明へのコメントや質問があればここで取りたいと思います。

○ 下大藺 委員

この資料の 14 ページに空き店舗率のデータがありますが、これは中心市街地全体の数字、347ha の赤い線で囲ったエリアの数字でしょうか。

そうだとしたときに、今回議論する中核エリアについては、どんな実態なのか素朴な疑問として、教えていただければと。

○ 事務局 石井 総合戦略室次長補佐

中心市街地の空き店舗率は、今回の議論の対象範囲の中核エリアよりも広い、中心市街地全体を調査した数値となっています。ビル所有者や土地所有者に公表を前提に行っている調査ではなく、調査員が目視で確認し、経年のトレンドを見ることを目的としている調査のため、中核エリアに限定した数字ではありません。

ただし、内部資料としてはありますので、次回以降、中核エリアに絞った形でお出しできる内容を整理してご提供したいと思います。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。高倉委員お願いします。

○ 高倉 委員

長野県の高倉です。何点かお聞きしたいのですが、次の議論にも繋がる部分です。

駅前の再設計というお話がありますが、街中の再開発に関するデベロッパーのご相談だとか、マンション建設の動向など、マンションへの需要が、実際、松本市民の皆様にあるのかということもありまして、それをまずお聞きしたいです。

それから、今日もすごく暑いのですが、松本は長野県の中で緑被率は非常に高いのですが、駅から中心市街地へ向かう道筋には、緑や日陰がほとんどないと思っていました。緑被率ではなく緑視率、要は見てどれだけ日陰があるのかという点が重要で、歩きたいけれど日陰がないので歩きたくなる部分もあると思うので、そのような論点も必要かなとは思っています。

その点については、人流調査をやられていたのではないかなと思うんですね。松本駅にいられた方がどのような移動をされているかということも、次回以降、ご提供いただけると助かります。人流調査は、簡単にできるようになってきていて、松本には資源がたくさんありますので、うまく繋げていくことが重要かなと思います。

○ 事務局 赤間 都市計画課長

都市計画課の赤間と申します。よろしくお願いします。

まず1つ目のマンション需要の関係ですが、松本市は平成29年に景観条例を改正し、平成30年1月から景観事前協議制度を行っています。建築物の高さが15mを超える新築・改築・増築の建物は、事前協議をしていただくことになっておりまして、事前協議の対象エリアは、今回の中核エリアも含まれています。協議状況ですが、この6年間で15m以上のマンションは6件協議しています。マンションメーカーさん等から、用途地域等のお問い合わせは、いただいている状況です。

次に、2つ目のご質問、緑地に関するものですが、現在、長野県と市でグリーンインフラの取組みを進めています。特に松本駅から、あがたの森通りにつきましては、シンボルストリートということで、松本建設事務所と連携しています。

緑の基本計画の中間評価で緑被率の調査を行っていて、その数字は今まとめているところですが、市街地は土が少ないので、新たに木を植えるところがないのですが、そうした中でも緑化は重要ですので、今後も少しでも増やす取組みをしていくところです。

○ 事務局 勝山 観光プロモーション課長

観光プロモーション課の勝山と申します。お願いいたします。

人流調査は、NTTのモバイル空間統計データの調査を、令和元年度のものでよろしければ持っております。また最新のものでは、長野県の調査結果がございますので、次回までにご用意ができるものをご提供いたします。

○ 高倉 委員

ありがとうございました。アンケートでも緑が欲しいとあるので、まちなかに日陰がないなという実感を含め、駅をおりたところから色々な地域資源が連続していけばいいなということから、次の論点の一つとしてお聞きしました。

また、第2回目以降でお話をさせていただきたいと思っておりますが、松本市がまちなか居住をどのように誘導しているか伺いたいと思います。

20代は転出が多いということなので、例えば、まちなかは地価も高いので戸建て

は難しいと思いますけれども、どのように人の住む方向に誘導されるのかなというのも気になるところです。また次回以降でデータなど、お分かりになる部分でご提示いただいて、議論を深めていければということで、ご質問させていただきました。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。非常に重要な論点、テーマであります。

この会議は、このような対面での実施は4回しかないわけですが、色々意見を吸い上げて、使えるデータはなるべく共有し、分析をかけて、そのデータをどう解釈して、どのように活用していくかは、この会議でやるべきことだと思いますので、可能な限りそのような準備も進めて、次回以降でできればというふうに思います。

その他に事実関係で、ご質問なり、ご確認なりございますか。

○ 中島 委員

すみません。1点よろしいですか。

高倉委員と私も同じようなことが言えるかなと思ってしまして、基本的な土地利用のこの10年ぐらいの変化のデータが必要なんじゃないかというのがまず一つです。

先ほど住宅、マンションということで高倉委員がお話になりましたが、それだけでなく、どのように土地利用が変化してきているのかというのは、都市計画の基礎調査で取られているものがあると思います。

今回の資料では築年数だけがありましたが、建物用途とできればグランドフロアに限定したようなものがあればいいと思うのですが、そういう土地利用のデータと、あと基本的な人口動態ですね。どのぐらいの精度かというのはありますが、今、松本の中心部でマンションにどのような方々が住まれているのか、転入し始めているのか、それを知るためにも年代性別の基本的な人口動態をおさえておく必要があるというふうに思います。その辺りは、スペシフィックなというよりも基本的なデータとして議論に必要なのかなと思いました。

○ 山本 座長代理

ありがとうございました。他はいかがですか。齊藤委員、どうぞお願いします。

○ 齊藤 委員

マンションの話がありましたが、松本は長野県の中でもマンションが非常に多く建っていますね。あるところで聞いたことがあるのですが、マンションはいっぱいあるが人口にはあまり影響がないのではないかと。マンションの戸数ぐらいは人口が増え

ているのか、ほとんど変わらないのかといったデータはお持ちなんですか。

松本をどうするかという点では、人が多くなることが基本だと思うんですね。いい人が集まって、松本が好きな人が増えるためにマンションが建つのだと思っていたら、あまり人口が変わらない、減りはしないというところがありがたいんですけど、その辺はどのように捉えているのか、お聞きしたいと思います。

○ 事務局 石井 総合戦略室次長補佐

人口につきましては、ピンポイントでマンションが建っている場所等が把握できますので、人口がどうなっているかといったものについて数字は追えると思います。次回までに整理したいと思います。

○ 山本 座長代理

はい、ありがとうございます。

他、よろしいですか。次の議論でこういうデータも必要だよとか、基本的な認識として事実関係を押さえないといけないよねというものが出てくれば、次回までに事務局にご用意いただく形で進められればと思います。それでは、今後の検討テーマについてご説明いただき、それを意識しながら残りの時間、委員の皆様と議論できればというふうに思います。それでは事務局から説明をよろしくお願いします。

○ 事務局 石井 総合戦略室次長補佐

それでは、引き続き説明させていただきます。

28 ページになります。26 ページのエリアの課題と現在の取組みから見えてくる今後の方向性を、3つの方向性と検討の切り口に整理したものになります。

検討会議ではこの検討の切り口を議論し、各種団体との意見交換、それからワークショップ、シンポジウムなどで出されたアイディアなどを汲み取りつつ、将来に向けた骨太の指針、新たな見取り図を取りまとめていただければと考えています。

1つ目は、松本駅周辺から松本城に至る公共空間の再編です。ここで言う公共空間は、行政だけではなく民間用地も含めたパブリックスペースというイメージです。

2つ目は、松本駅周辺で民間投資を促進する環境の整備、3つ目が、再活性に係る段階的な取組み・スケジュールです。

この3つの大きな方向性のもとに、検討の切り口を3点ずつ整理しています。検討の切り口については、委員の皆さんがそれぞれご意見をお持ちだと思いますので、あくまで、ご議論していただく際の叩き台にいただければと思います。

方向性の①、松本駅周辺から松本城に至る公共空間の再編では、松本駅周辺の総合交通ターミナル化、松本城周辺の高付加価値化、松本駅を中心に居心地が良く歩きたくなるまちなか空間への転換を検討の切り口としています。

方向性の②、松本駅周辺で新たな投資に踏み出せる環境整備では、新たな投資に踏み出せる環境整備、松本駅東地区の集積化・高度化、女性と若者が集まるハレの場としての都市機能を検討の切り口としています。

方向性の③、再活性に係る段階的な取組み・スケジュールですが、再活性に向けたコンセプト、中長期に渡る取組みスケジュール、再活性を担うキープレイヤーのネットワーク・プラットフォーム化を検討の切り口としています。

また、点線囲いの検討の切り口は、ワークショップやシンポジウムで議論のテーマとすることを考えています。あくまで、事務局で整理した検討の切り口でございますので、これを叩き台にご議論いただければと思います。以上になります。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。ご説明があったように、あくまでも叩き台で、この枠組みに絶対に縛られるというよりは、まず一つ思考の枠組みとしては、非常にポイントを絞った3つが出てきたのかなというふうに思います。

これから議論いただく前に、今日の最終的なゴールについてお話をさせていただくと、繰り返しになりますが、4回あるうちの1回目なので、今日は色々な議論のポイントになるようなもの、先ほどもご指摘があったこの種のデータみたいなことを、この場に全て出してみたいというふうに思っています。

私がこの議論を進めるときに意識しているのは、いわゆる社会の中に3つの部門があると言われていることです。

1つ目が、公的な部門です。この場合であれば松本市ということかと思います。

2つ目が、今日もご参加いただいている皆さんのような、いわゆる民間部門です。

3つ目は、色々な言われ方をしますが、市民社会部門。場合によっては大学も含まれる、広く捉えるとそうかもしれません。

この3つの部門には、それぞれの得意分野があり、市街地をどうしていくのかという場合、単独ではなく3つが役割分担をしながら連携することが恐らく重要だと。

最終的にこの会議で提言を取りまとめて座長から提言をしていただきますが、提出先は市なわけですね。そうすると、市ができることとできないこと、得意なことと得意でないことがあると思いますが、官でなければできないこともあると。その1つ

は、やはりルールの変更だと思うんです。

ルールの設定や変更、これは民間や市民社会部門にはできなくて、議会でもご議論をいただく必要があるのですが、ルール変更の方向性には2つあると思うんです。

1つは緩和するという方向性ですね。もう1つは逆に規制を強める形でのルール変更、場合によっては新しいルールをつくるというのがあるのかもしれませんが。

いずれにせよ、このルールづくりは官でなければできないことですし、統一の方向性、方針を打ち出す場合には、実は、このルールとかビジョンが非常に重要になってくるんだろうなというのが意識の中にあります。

もう1つは、資料の4ページに提言に向けたスケジュールがあります。4回の議論がある中で、私自身も半年、色々なことを勉強したいと思っています。

スケジュールに各種団体との意見交換がありますが、私も限られた時間になりますが、この夏季休業の間に時間をとって、アドバイザーとして入ってくださっている園田さんとも相談しながら、そのあたりを吸い上げて、座長、事務局にご報告し、議論に取り入れられるように、委員の皆様に出していきたいというふうに思っています。

それが大きなところでございます。

先ほどからでているグリーンインフラは既に俎上に載っているように感じます。

今日の進め方としては、一度全員にご発言いただければということでお回します。その後はインスピレーションを得たことからご発言いただいてと思っています。

もちろん、できること、できないことがあります。ただ、もしかすると私なんかもうできないと思い込んでいるだけということがあるのかなという気がします。

これから色々なことが変わっていく中で、現実的に考えたら無理だよなと思い込んでいるだけで、実は工夫をすれば、できるようなこともあるのではないかと。

ただ、できないことはやっぱりできないし、できることしかできないんだけどもと言うような問題意識を、私自身持っていたりします。

いかがでしょうか。どんなことでも構いませんので、お願いいたします。

○ 高倉 委員

的が外れるかもしれませんが、駅前はかなりポイントで、緩和したいという方向だと思うのですけれど、先ほどご質問したとおり、緩和する必要があるのかということがあります。松本駅は長野県を代表する駅なので、すみません、JRの支社長さんがいらっしゃると思いますが、駅前広場を何とかできないかと思うところです。

駅前周辺には緑の問題もあるのですが、人が溜まる場所がないんですね。今日もまちなかを歩いてみたのですが、高校生がどこにいるのかと思ったら、全国チェーン店でコーヒーを飲んでいますが、お昼に開いているコーヒーショップがないなという印象です。

夜は非常に濃密でいいのですが、昼間行くところがないので、都市計画は規制と緩和なのですが、需要があって将来を見通した中で必要なかどうかという議論が必要かなと思います。

また、松本のまちなかは一方通行が多いのですが、むしろ徹底的に一方通行にしたらどうかとも考えます。逆に言うと、一方通行をうまく活用して、まちなかを拡張しなくても、一方通行で交通処理できるところがあるのではないかなと思っています。

資料の7ページにありますが、一方通行を活用して周遊するような、できるだけ車を入れないというところで、フリッジに駐車場を持ってくるという方法もあるのかなと思います。バスターミナルの話もありますけれど、駅周辺と限られたところに車を停めて、あとは歩いていただくという仕掛けが必要なので、そこを規制するものと緩和をする、色々あるかなと思います。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。スタートということですのでずっと回していきたいと思います。
小林委員、よろしくお願いします。

○ 小林 史成 委員

アルピコ交通の小林です。

松本駅前から松本城にかけてということですので、まず動線というか、既存の道路がありますが、高倉委員も言われましたが、その道をどうするかというところまで踏み込むのかどうかという話は、結構重要ではないかなと思っています。

総合ターミナル化ということもありますけれども、誰に向けてつくる計画なのかというと、当然住民の皆さんもいますし、これだけ観光客が松本城に来ますので、外国人も含めたその方たちに、利便性も含めて、私ども公共交通という立場から言えば何がいいのかなというのはあります。

ただ、昭和42年から駅前の再開発が始まり、昭和53年頃に当社の駅前ビルもできましたが、ターミナルだけでもいけないですし、そこにはやはり賑わいを創出するものや、憩いの場があったりするのがベストなのかなというふうに私は思っています。

当然、長野県、松本も1人1台以上の車の保有率という実態がありますので、恐ら

く何かの規制を強化すると利便性が損なわれて、相反する部分もあるのでそこをどうやって共存できるのか、一番は住んでいる皆さんの理解を得つつ、駅前からの動線も含めて検討の余地があるように思います。

あと、資料 28 ページの 2 番目に書いてもらっているとおり、駅前には本当に真っ赤に示された古い建物がいっぱいありますが、自分のところばかり言ってもいけません、事業を進めていくにはどのようなスケジュール感で行うのか。やはり再開発というと、当然合意を得たりして期間が長くなる傾向にありますので、こういった時間軸でやっていくのか。これがあまり長すぎると、投資をしたくても乗れないなということも出てきます。法律がありますので、それだけ早くというわけには簡単にはいきませんが、道路の話と投資に向けた法律の整備みたいところは、非常に重要なと私の立場では思っています。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。

今、この問題に踏み込むのかどうかという話がありましたが、この会議では、思い切り踏み込んだ方がいいのかなと思っています。踏み込めないということに最終的にはなるかもしれませんが、しかし、この場合は、ある種の自己規制をはめるというよりは、松本の中心市街地を取り巻く環境が厳しい中で、何かをしなきゃいけないということですから、相当色々なタブーを 1 回取り払って議論だけはここでしておいて、最終的に何を取るのかというのは先の話だと思います。時間軸の話も非常に重要だと思いますし、そういった論点も今いただきました。

ありがとうございます。そうしましたら、下大藪委員、お願いします。

○ 下大藪 委員

はい。JR 東日本の下大藪です。

今、ご意見を聞かせていただきながら、私なりに考えていることではあるんですが、松本市の方向性を見直すに当たって、何が問題なのかということを詰めないといけないと思うんですね。

そうした時に、資料 20 ページにアンケート調査結果があって、中心市街地ではどのような課題があるのかということ、交通渋滞が多いというのが一番上にきていて、行きたくなる条件では、施設がもっと充実しているといいねというようなご回答なんだと思うんですけれども。

資料としてお示ししていただいたものは、公共交通をもう少ししっかりと再編しなければいけないという方向感は見えるんですが、そもそもこの交通渋滞というものを

どう捉えるがというところが、もう一段しっかりと議論しないと、答えは出ないのではないかと個人的には思っています。

今まで色々な都市のまちづくりというのを見てきましたが、歩行者と自動車のバランスをどう取るかですとか、公共交通と自動車のバランスをどう取るかというようなところが大きな論点になっています。これからの時代はそこに新しい交通、シェアサイクルなども含めて、最近ではスケートボードに自動で乗っていけるような新しい交通モードもありますけど、そのような交通モードも含めて、どういう形で交通問題というものを、松本市においては、この限られた中心市街地のスペースの中で解いていくのか。

そこに合わせた形で駅前広場の機能も再配置しなければいけないでしょうし、緑が足りないのであれば、緑も配置しなければいけないだろうというふうに思います。

我々も、東京駅丸の内駅舎保存・復原と合わせて、丸の内側の駅前広場を改修しましたがけれども、あれは交通機能をだいぶ変革して、いわゆる一般の方々が歩いて楽しめる、ないしは緑をもう少し増やすというような駅前広場にしたいということですが、そういうようなことをどこまでやる必要があるのかと、この問題認識は色々な方々と議論するに当たっての共通認識にしないと議論がおかしな方向にいくのかなというふうに思っています。

そういう意味で、今回の資料は、中心市街地の退店される店舗や、駅前の施設が古くなっているなどの課題が浮き彫りになっておりますが、あまりもう残されている時間は長くないと思いますので、やはり議論自体は迅速にお願いできればなというふうに思っているところです。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。続きまして齊藤委員、よろしくお願いいたします。

○ 齊藤 委員

コンベンション協会の齊藤でございます。

皆さんハードのことを議論されていますが、資料の21ページに、松本三の丸エリアビジョンで小中高生に行ったアンケート結果がありますよね。

これも非常に大切なことだと思っていて、私は松本で就職する人たちがなぜ松本へ就職したのか、大学などで外から松本を見た方に聞くと、ソフトの面では答えが出るんじゃないかなと。やはり若い人を大事にすると言っているんですけど、高校生になると暮らしたくないとなってくるわけですね。

今度、学生から社会人になった人たちの意見、松本に求めているものとは何なのかということ。彼らがここに就職し、一生ここで働いて生活していきたいという理由が分かると。住んでいる人が、ここが大好きということが大事なので。その辺が調査できて情報が入るといいなと思います。

そうすると、近所にお住いの方も、商売をやっておられる方も、そういう人はこういうものを求めているんだという形で、商売が変わってくるんじゃないですか。

私は観光の立場ですが、松本駅から職場までの道というのは、本当にゆっくり街を見ながら歩けるところ、これ本当に必要だと思うんですね。四柱神社から松本城へ歩くと、ものすごく不思議ですね。松本城に向かって左側だけお店なんですね。右側にはないでしょ。これも何なのかなというふうに思うんですね。両方に店があってもいいんじゃないかと思うんだけど、これもまた人の真理でありますので、こちら辺も調査して両側にあったらいいなと思うが、我々が持っている情報だけでは解決できないような人の心が、そこに住んでいる人、また観光者の心にあるんじゃないか、そんなふうに思います。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。中島先生、お願いできますか。

○ 中島 委員

改めてこの資料を読んで、外からの視点が一つだけあって、森記念財団の都市ランキングですが、ランキングにはあまり意味がないかもしれませんが、ただ、松本という都市が持っている都市イメージというのが如実に表れているなと思ひまして。

松本は金沢と並んでいますが、経済や商業という面での強みというよりも、やはり文化・芸術といった面のイメージが非常に強い。ただし、そういうものというのは、実はなかなか育てられるものではなくて、松本が築いてきた歴史に裏付けられた、非常に重要な価値だというふうに、これを見て改めて思ひました。

その上で、松本の都市構造ですが、松本城を中心に文化・芸術の視点で見ると、例えば松本の城下町から少し離れていますが、旧開智学校とか中央図書館があるようなエリアというのは、まさに文化芸術のある種の一つの核になっているんだろうというふうに思ひました。

一方で、東側の美術館とあがたの森のクラフトフェアの会場、これも非常に松本の大きな資産だと思うのですが、文化芸術の雰囲気があるって核となっている。

その時にですね、実は私、松本駅に降りて駅前の一つ大きな課題として思ひたのは、駅前に全く文化芸術の香りがしないと言うと語弊があるかもしれませんが、要素

が唯一欠けている場所だなというふうに思いました。

資料にも、駅は松本の玄関口らしいことが書いてあるんですが、それは何だろうというときに、やはり松本の持っている強みである文化・芸術の力みたいなもの、文化と芸術の近くに生活があるというあたりが、実は欠けているわけです。

逆に言うと、今まで駅前はそのような側面が弱い場所だったと思われるんですが、何かそういうものというのが一つ考えられないかなというのは思います。それは、既にある図書館であるとか、美術館のような、必ずしも今までの箱物的な公共施設ということではないかもしれませんが。

そもそもデパートの閉店から始まっているので、デパートの建物をどのように活用するのか、新しく作らなくても実は可能性に満ちた空間があったり、更新が必要とされている建築ストックも、再開発という段階は最終的にはあるかもしれませんが、リノベーションであったり、小さな投資みたいなものを入れて、文化的あるいは芸術的なものに使うとか、あるいは、学生たちが使う場所とか、何かそういうものを細やかに駅の周辺に入れていくような未来像もあり得るのかもしれない。

つまり大きなインフラの再構成と同時に、もう少しストックを細やかに再生させていくようなことは、最初に市長さんからお話にあったピンチをチャンスに変えるというところでいくとあり得るかもしれないので、その場合には、やはり松本の文化芸術という中で、駅前がどのような役割を担うのかということが一つあるかなというのがまず1点目で思ったことです。

2点目は、2つ目の方向性で、民間投資を呼ぶには公共投資が必要というか、公共が思い切って手を打たないと民間もなかなか投資してくれないと思うんです。

先ほどのデパートもありますが、公共空間としては街路もありますし、駅前広場もあります。やはりパルコや井上百貨店のことから考えると、中央西公園であるとか、あるいは松本駅前記念公園、実はああいう場所が、ものすごい可能性を秘めている空間なんじゃないかなと思います。

緑の空間という意味でもそうなのですが、女性と若者が集まるとか、アンケートの中でも公園が欲しいと言った場合の公園というのは、恐らく今、松本にはないようなパブリックスペースや公園みたいなものを求めている声であるように思います。

実はそういうものの種が、区画整理によって生み出された街区の中心にある公園で、そういったものをうまく再生させることで、その周囲に、人々が自分の居場所と思うような公共空間が駅前にできてくることで、結果として良い飲食店であるとか、新しい1人1人の小さな投資が始まってお店が出てくるのであって、先に素敵な飲食

店などを誘致しようとしてもなかなか難しいんじゃないかと。

そういう意味で言うと、公園であったり、あるいは駅前広場もそうなんですが、そういうところを、いかに魅力的な人々が使いたくなる、行きたくなるディステーションにしていくか。それが、実は都心居住とも関係していて、都心居住のライフスタイルを生み出すというか、ただ単に、まちの中心部に住んでいるのではなくて、新しい暮らし方というか、何かそういったものをその公共空間を中心に見出していくことができるのではないかというのが、もう一つのこの空間的な話ですけども、ぱっと見て思ったことです。

3点目は、どういう体制でこの中心市街地の再設計とかデザインとかを進めていくかということ。

非常に長い時間がかかるものと認識していますし、色々な考え方がありますが、行政だけでは駄目で、やはり公民学の連携、特に民と、これも松本の強みだと思いますが信州大学もありますし、そこをしっかりと巻き込むような仕組みや体制、公民学の連携の中で、この中心部を動かすエンジンというか、そのデザインもものすごく重要になるんじゃないかなというふうに感じた次第です。

すみません。中座した関係でピントが外れているかもしれませんが、最初の私の印象として、今回のテーマから思いついたことになります。

○ 山本 座長代理

中島委員、どうもありがとうございました。

今、中島委員のお話を聞いて思い出したことがあって、松本では2030年に向けて基本構想が走っていますが、策定時に色々な議論をしていた時に、やはり同じようなことが出てきました。

何かというと、文化芸術の話もご指摘いただきましたけれども、ちょっとそれを広く言うと、そう簡単に作れないものと、人間では絶対に作れないものがあって、例えば、北アルプスの景色みたいなものは、人為的に作ることができないものですね。ですから、そういうものをどのようにして生かしていくのか、既にあるものをどれだけ磨いていくのかについては議論があったので、同じような方向性というのは見えてくるのかなというふうに思いました。

もう一つ聞いていて確かにそうですねと思ったのが、リノベーションみたいな形もあるんじゃないかというご提案の件です。

別の言葉で言い換えると、大きな投資とリノベーションくらいの比較的小さなサイズの投資というときに何が変わってくるのだらうと思うと、地元の人たちがどのくら

い主役になっていけるのか、かなり大きな規模になってくると、どうしても地元だけで何かすることが非常に難しくなってくると。

一方で、サイズが小さくなってくると、地元の顔とか地元の人たちの関与が非常にやりやすくなってくるし、起こしたい規模とその地元の人の関わり方の仕掛けといえますか、そういうところもしかしたら一つ規模みたいなことを考えて、どのエリアで、どういうことを、どのサイズでやるのかは重要かなというふうに思いました。

もう一つだけ、基本構想 2030 によく出てきたのが、中心市街地だけが松本市じゃないですよという話です。この話はずっとやっていたんです。

周りの人たちがいて中心市街地がある。中心市街地の議論をここだけで考えるというよりは、いかに松本の他のエリア、周辺地域との繋がりを考えるか。これは人的な繋がりだけでなくグリーンインフラの話でいったときに、山というか周囲とどう繋ぐのかみたいなことは議論になっていたので、今回の最後の提言に落とし込むときには、重要なテーマになるのかなというふうに聞いていて思いました。

中島先生、ありがとうございます。

○ 中島 委員

あと一点だけ。検討テーマの中に、女性と若者が集まる場という言い方があるんですが、これは女性と若者は単なる消費者だけという捉え方じゃなくて、むしろ女性や若者が挑戦できたり、お店を開けたり、自分の好きな環境を生み出せるような場所というのはとても大事で。それはまさに、このピンチをチャンスに変えるための本当に一つの秘訣なのですが、ぜひ松本の人自身が、中心市街地で色々な挑戦ができてその結果として、若者たちが松本に戻ってきたり、住み続けたいくなるような、そういう発想がとても大事なんのではないかなというふうに思いました。以上です。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。

確かに供給者と消費者ではなく、ある意味では自分も参画をしているわけだから、単純に消費するだけの対象というより、どうやってまちなかに関わっていくのか、参画していくのかとか、そういうようなところが、うまく今回の仕掛けとしてできればいいんだろうなというふうに思いました。

それでは、小林篤史委員、お願いします。

○ 小林 篤史 委員

今お話にあったところで、2 つ気になっているところがあります。

24 ページの地域経済循環図から見る松本市の特徴、右に域際収支は黒字と出ているところなのですが、例えば、今ある地域の店舗が惜しまれて閉店した翌日には、新しい工事が始まっているぐらいのスピード感で、県外からのビジネスチャンスを求めて新たな投資が進んでいるというところを、毎日毎日、まちを見る度に思っているところです。

もちろんそれが全て駄目なわけではないのですが、どうしてもその中で、松本市をデザインしていく上で、どこまでが自由経済の中で進んでいくべきなのかというところと、私どもの事業も長くやらせていただいているところには入るんですけども、そういう中で地元の店舗をどうやって守っていくのか、そういう人たちにどのように当事者としての意識を植え付けていくのか。そうした点がとても大事になってくるのではないかなというふうに思っています。

その方向性については、ぜひ考えがあるのであればお示しいただきたいと思いますし、現在、私自身が町会役員をしていますが、自治がなかなか守られなくなってきてしまっているというのが現状です。

町会費を集めに行っても、このお金は何のために使うのか、これは払いたくないとお話をされるような方もたくさんいらっしゃいます。

街に住んでいる方と、私もそうですが遠くからまちに通っていて、そこで生業をしている人たちとの間の中心市街地における価値観の合意形成といいますか、向かう方向を一緒に合わせていくという議論は、必要になってくるのではないかなというふうに思います。

もう一つ、女性や若者の立ち位置から、自分自身も小さい子を持つ親としてもそうなのですが、どうしても中心市街地に子どもを連れてこようとすると、必然的に車の流入が増えてしまう。結果、そのようなことも考えてかもしれませんが、公共設備も子どもたちに対する空間の提供や機会の提供など、無償で受けられるサービスは、郊外にふってしまっている現状があるのではないかなというふうに感じています。

例えば、博物館の託児施設に何百人という子どもがいることは、恐らく想定せずに作っているような感じですね。新しく建てられた建物ですら小さい子どもたちから大人までが楽しめる空間というよりは、世代的に少し上の人たちを中心、もしくは観光客の視線をすごく大事にしながら、作られた建物がすごく多いのではないかなと。

結果的に郊外のショッピングモールに人が流れて、子どもを連れて入れるお店が少ない、駐車場も少ないということで中心市街地に人が流入しなくなってきてしまう。

一番地域の魅力を感じて欲しい、アイデンティティを醸成して欲しいというところ

で、次の世代の人たちとの接点が減ってしまっていることが、課題かなというふうに思っています。

そういうところを考えると、先ほどの公共交通の施策と関連してくると思うのですが、小さい子どもたちがしっかりとここで学び、遊べる場。そこは、全てお金がかかるのではなくて無償も含めて、もちろん有料コンテンツも含めた上で、この地域にどンドン遊びに来てくれるような空間づくりというのも、今後、中心市街地の持つ役割としては重要になってくるのではないかなというふうに思います。以上です。

○ 山本 座長代理

はい、ありがとうございます。続いて花岡委員、よろしくお願いします。

○ 花岡 委員

先ほど中島委員が仰ったことと重なる部分も多いのですが、中心市街地に国宝が2つあるまち、そして、公園や芸術館があることをどう大事にするのか、城下町をどう大事にするのか、どの目線を大事にするかでまちづくりが変わるかなと思ひまして。

グリーンインフラも、総合交通戦略のものと同じでトライアングルで考えられている施策だったりするので、中核エリアを考えると、より城下町を大切にしたいまちづくりをしていった方が、魅力あるまちになるのかなというふうに思います。

また、城下町を大切にしたいまちづくりでなければ、松本でやる意味がないかなというふうに思ひまして、駅前が賑やかになればいいというだけだったら松本でやらなくてもいいし、松本でこれだけ大きなエリアの見直しをするのであれば、城下町をより大事にしたまちづくりをしていきたいというふうに思います。

また、小林さんが仰ったように、子どもの遊ぶ場所がないというのも、私も子育てをして経験していますが、観光客の方も雨の日に見るところがなくて、それが月曜日だとどこもやっていない。松本の課題は滞在時間が短いこともあると思う。

中心市街地にこれだけ施設があるのに滞在時間が短くて、松本城に来てすぐに高山に行ってしまうとか、移動される方が本当に多いので、駅前だけで完結してしまうと、より滞在時間短くなってしまうので、エリアとしてどう回遊させていくかというところも課題になるのかなというふうに思います。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。何人かの方からやはり子どものお話は出ていますよね。私も移住して12年、13年くらい、子育てをこのまちでしたものですから、私は中心市街地というエリアに住んでいるので、このエリアを歩くのですが、子どもの遊ぶ場所

もそうなのですが、単純に他の町から引っ越してくると危ないというか、手を離せないみたいなことは、子どもが小さいときには感じます。

もしかしたら、交通の問題とも関わってくるところなのかなとも思います。アンケートでは大型のショッピングモールがお気に入りの場所とありましたが、親の心情的には結構分かるところがあって、交通事故で轢かれてしまうみたいなどころからの安心感は得られるみたいなどころも、もしかしたら、総合的に絡まり合って現状ができているのかなというのも、お話を聞いて思ったところです。

ずっとお待たせしてしまいましたけれども、伊藤委員、よろしくお願いします。

○ 伊藤 委員

すみません。皆さんがもう話していただいたのでなかなか提案できるような内容はないのですが、商売人としてちょっとここは書いてほしいというか考えてほしいなと思うことがいくつかありまして。

一つは何度か出ていますが、大名町を始めとした観光客が歩ける、松本に来たと実感できるようなものが、松本にはないというか、離れているんですね。

松本城と縄手とか中町という感じになっていると思うのですが、それを繋ぐ、歩いて松本に来たなど、観光客に思ってもらえるような整理が必要だと思います。

長野市の善光寺の前の参道は、やはり歩いているだけでも結構わくわくしますもので、ああいうものが松本に必要なかなと思います。

それを踏まえて言うと、観光に関する商業エリアとパルコと井上百貨店がなくなるとなったときの生活に関わる商業エリアというものは、別にして考えないといけないのではないかなと思っています。

特に松本は今、すごく観光客が増えていて、更に言うともこれは商売をしていて実感するのですが、海外の方はリピートで何回か来ている方が多いです。そういう方たちは東京や京都など有名な所には一度行っていて、なぜ松本に来るかという、もっと日本が知りたい、日本の文化に触れたい、なんだったら松本の生活の中に入りたいという感じで来るんですね。

だからお話をすると、昨日何食べたのと言って、どこどこのあれを食べたよと言ったら、そこ行くという感じになるので、海外の人たちが生活に入ってこられるような、その商売の場所の作り方をしなくてはいけないなとすごく感じています。

自分のところでいけないのですが、折り紙の体験をしてみらうのですが、それが今すごく人気があります。問い合わせが結構来ます。ただ、松本の風習として七夕人形

だったり、青山様、ぼんぼんも体験としては面白いと思っていて、そういうのがもっと入るような形にしてもらえればいいと思います。

もう一つ、観光のことで思っていることがあります。海外のお客様がこれだけ多いと免税をもう少し考えた方がいいかなと思います。免税法が数年前に改正されていて、免税所がなくても、商店街レベルで免税を一括して扱えるようになったので、大きなエリアで、1店舗1店舗ではなくて商店街レベルで免税ができれば、すごく大きなアピールポイントになると思います。

システム的にはもう出来上がっているのも、もし行政の方でも簡単に手続きできるようなことにしてもらえれば、実現可能になってくると思います。以上です。

○ 山本 座長代理

はい、ありがとうございます。

全ての委員の方にご発言いただいたかなというふうに思うのですが、28ページの3つの方向性の検討の切り口をもう1度見つつ、2回目までに調べて欲しい資料は調べていただきますし、まとまっていなくても構わないので、思いつきレベルでも1回出していただければなというふうに思います。

他の皆さんのお話を伺って、更に思ったことでも構いません。どなたからでも構いませんけれどもいかがでしょうか。花岡委員からお願いします。

○ 花岡 委員

はい、すみません。

女性と若者が集まるハレの場の認識が、一発花火なのか、ずっと非日常体験を味わえるような施設なのか。ハレの場にどういった意味を持たせているのかというのは気になっていて、イベントであればここで議論することでもないかなと思うんです。

先ほども言ったように、城下町を大事にしたいという思いもある中で、文化も大事にしたい、公園もあり、舞台もありますし、観光の活用もいけるかなというふうに思います。あれは大きな財産だと思いますし、文化の継承はすごく大事なことで、松本でやる意味をしっかりと落とし込めたらいいのかなというふうに思いました。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。言葉の定義も含めて、どのように捉えていくべきだろうかとか、場合によってはこうじゃなくてこっちの方がいいかもしれない、というようなことも含めて、ここで議論ができればなというふうに思いますので、すごく重要な問題提起をいただいたかなというふうに思っています。

他に何か関連することでも、そうでなくてもいいのですが、何かここを出しておきたいことがございますか。中島委員、よろしくお願いいたします。

○ 中島 委員

課題を整理した資料では、松本駅を中心としたエリアと松本城周辺のエリア、2つのエリアに分けて、それを繋ぐということだと思っております。

松本城は、城下町の中に今も息づいていて、それが中心として大事だということはいくぶん分かるし、松本城周辺のエリアも、もう少し下まで旧城下町が伸びていますので、そのあたりが松本の核としての城下町ということですが、一方で、松本駅周辺の集積化・高度化を検討しているところは、旧城下町から少し外れたところで、近代に市街化され、戦後に土地区画整理事業でつくった市街地で、城下町由来とは少し違う市街地というところだと思っております。

今回の検討は、松本城周辺も松本駅周辺も考えるということですが、一番考えなくてはいけない方向が定まってないというか、一体どういう将来に向かうのかが分かりにくいのがこの集積化・高度化を検討している、つまり百貨店の跡地、百貨店がいなくなる場所なのかなと思っていたのですが、議論の重みをどのように持っていくかが大事なのかなという気がしてまして。

駅周辺を一番に何か考えなければいけない所なのか、それとも松本城の周辺も含めて、同じような濃度で考えていくのかとかという、そのあたりが事務局側の考え方かもしれませんが、説明を聞いていて分かりにくかったのですが。いかがでしょうか。

○ 山本 座長代理

28 ページのスライドで3つ議論のスタートということでお示しいただいておりますが、重みづけがあるのかという事実確認ベースのことですので、事務局の方からコメントいただけますか。

○ 事務局 藤井 総合戦略室次長

私の方からお話をさせていただければと思います。

中島委員からお話が出たとおり、重み付けというものは我々必要かなと思ってます。4回という形での会議となりますので、一番は、今日もお話が出ていました松本駅周辺については、会議の中心にならざるを得ないのかなと思っております。

ただ、中核エリアは駅前だけではないので、先ほど回遊性という話も出ていましたが、駅前に重きを置きつつ、少し欲張った言い方になるかもしれないのですが、お城も松本の一番の重要な点だと考えておりますので、その繋ぎの部分は、ご議論をいた

だきたいと考えています。

会議のきっかけとなっていますパルコの閉店、それから井上百貨店のお話もありましたので、その代わりとなる賑わいをどう生み出していくのかという点は、皆さんにご議論いただきたいと思います。

花岡委員からお話があったハレの場も、決して一発花火的なものではなく、常に女性と若者が集まる居場所。都会であればいくつもあるのかもしれない子どもの遊び場などの都市機能が中心市街地に少ないということは、我々も認識をしております。

ですので、松本駅前に重みを置きつつ、そこを広げて歩いて楽しめる部分が中核エリアという形で考えておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○ 中島 委員

ちなみにそういう意味で言うと、ハレというのは訪れる人、ケは生活者だと思うんですが、集積化・高度化の検討エリアは、人が住まう可能性も高いというか、実際の供給されるものはマンションなどになってくると思うんです。

そこについては、住まう姿というか、観光と生活との関係とか、観光と商業がこの全体の松本市の中では中心部の役割ですけども、一方で、街中の居住というか新しい暮らし方みたいなのところも担う場所なのかなという気がしています。

それはハレというよりも、先ほど子ども・子育ての話もありましたが、観光と商業だけじゃなくて、生活というものを組み合わせないと中心部の姿が見えづらいのかなという印象です。その点も3つのテーマの中でどのように考えるのかを、ぜひ検討していただきたいなと思いました。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。私、司会進行させていただいていますが、先ほど申しあげた市の10年の基本構想で、かなり長い時間色々な議論を重ねてきて、その後、松本シンカ推進会議があり、その中でも、毎年議論を重ねてきているんですね。

大きな方向性としては、まちは誰のためにあるものなのかということ。これは今の中島委員からのご指摘によると、まずはやはり、住んでいる人たちにとってどのようなまちでありたいかがあって、そこに観光客が上に乗ってくるという議論でして。

やはり、どこまでも住んでいる人たちの一人ひとりの幸せとか豊かさとか、「住んでいてよかった」「やはり松本に住みたい」という個々の生活の部分がベースにあって、そのベースが非常に魅力的であるまちは、外から見た人にとっても当然魅力的であるので。何か外の人にとっての魅力を作るというようなことでは、簡単に見透かされて

しまうというような問題意識というのもあります。

今回は、なかなか難しい議論ではあるのですが、この中心市街地は多くの観光客の方、それから日帰りや短期滞在者などもたくさんいらっしゃるエリアなのですが、その人たちにどういう価値を提供できるかは恐らく重要なのですが、同時に、このエリアは普段生活している人たちが使うという、ここのあたりは、かなり自覚的に意識しながら、今回の議論を進めていった方がいいのではないかなというふうに、個人的にはお話を聞いていて思いました。

時間としてはあと 15 分ぐらいになってきていて、2 回目 3 回目では、このポイントというところについてはかなり突っ込んで、データも見たり、実際の状況を地図で確認するとか、そういうことも含めて議論を進められたらなと思うのですが。今日のところで、論点を出しておきたいものというのがありますか。

今出ている中では、グリーンの話はありましたし、交通問題、どうやってこの都市で人と物を動かし続けるのか、次の時代にもどうやって人や物の移動というものが確保されるのか、特に人がどうやって移動するのか、場合によっては、高齢化が進んでいくと、もしかしたら車椅子みたいな形でまちを移動する方というのが増える可能性というの、当然出てきます。

その中に自転車をどう考えるのか、歩く人はどう考えるのか、ご議論があるみたい、に車をどのようにこのエリアでは考えるのか、考え方の整理が必要かなというところが出ています。

それから、子どもの話やリノベーション。どのくらいの規模で再開発の投資を想定しながら設計していくのかとかですね。いくつか出てきたかなと思います。

交通網に関しては、お二人がいらっしゃるのもう少し次に向けて、先ほど踏み込んだ議論というお話もありましたけれども。もちろんこの場で言えること言えないこと色々あるかもしれませんが、この先議論を進める上で、ここを押さえてもらうといいということがあれば。小林委員と下大藺委員の方でいかがですか。

○ 小林 史成 委員

支社長もいるので恐縮なのですが、松本駅は重要なカテゴリーになるので、観光客の方も住民の皆さんもそうかもしれませんが、グリーンインフラとかあるのですが、まず駅を降りて歩くといったときに、横断歩道がそこにあっているのかみたいな話はあると思っていて。

降りたら歩ける街並みなんだということが必要なのかどうか。なかなか文化歴史の新しいものをつくることはなかなか難しい。文化歴史は長年の蓄積でできてくるもの

ですから、駅前にそういう香りを出すのは長い時間がかかるかなと思っています。

先ほどありましたようにエリアを分けて、駅前を集積化・高度化するという話と、駅周辺じゃなくて芸術館周辺はそういうものがありますけれども、そのアクセスとしてはですね、本当に駅を降りたときの印象というのは変わるかなと思っています。

改札を出て東口を降りた時に、お城口という名前がありますが、降りたら2車線の道路があり車は交通渋滞を起こしている、というような所を高度化で変えられるのかどうかというかですね、そうすると、当社のバスターミナルも今の場所にある必要があるのかどうかとか色々なことがある。

例えば、高速バスは今の駅前の場所、プラザから出ていますが、基本的に高速バスを利用される方は地元の方でも遠くへ行く方なので、1等地にもしかしたらある必要はなくて、JRさんのアルプス口にあって、向こうが県外からの玄関口になれば、そこから歩く街並みがつくれるということもあります。交通からすると県外の方と暮らしている人の利便性というものが必要になりますので、その視点で駅前周辺の開発は計画を立てたらいいのかなと、そんなふうには感じております。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。もし下大園委員、何かあれば。

○ 下大園 委員

はい。松本駅、JRの駅というのはどちらかというと広域からお客様がお越しいただくという交通を担っています。かつ松本に入ってくる路線はたくさんあるわけではなくて、3方向からということだと思いますので、松本に降りて目的地まで行きたいという方は、二次交通というものが必要になる。そういう観点でいきますと、やはり駅とそこからの交通みたいなものをどのように繋げるのかというのが一つございます。

それからもう一つは、松本は広域的に見ると空港もありますし、バスも多い、遠いところまで出ているような路線もありますから、長距離交通でも結節点である、鉄道だけでクローズしていないということを考えると、そこをどのように繋いでいくかという観点もあります。

市街地の道路にどれだけの負荷をかけているのか、どのような種類の交通がどれだけの負荷をかけているのか、というところを見ないと公共のために使える土地というのは限られていますので、何でもかんでも東京みたいに高度化して重層化すればいいというようなまちでもないでしょうから、そうだとすると、平面的に使っていかざるを得ない。ということ考えたときには、一定程度の機能の再配置というものが必要になってくる。そこにどんな機能を持ってきて、この機能は他のところに持っていく

というあたりをしっかりと議論していかなければいけないというふうに思います。

やはり松本駅に降り立つ人の多くの方が松本城を目指される。松本城の方向とか中心市街地の商業施設、ビジネスビルを目指されるということだとすると、そこにはある程度、歩いていけるというような交通も必要だと思います。

その辺のバランスをですね、どのような形でとっていくのか、そこに我々どもとしても、どこまでお手伝いができるかということだろうというふうにも思います。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。

議論を伺っていて、機能というキーワードが出てきたかなというふうに思うのですが、何をやるのかみたいなことの具体的なそのコンテンツ・方法を色々と考えていくというアプローチもありだと思うのですが、徹底的に機能というものに1回特化しながら、どのエリアにどのような機能が必要で、全部の機能は難しいとすると、その機能の優先順位みたいなものをどのように付けていくのか。

恐らくここには人々のライフスタイルを含めて価値の問題が入りますから、なかなか全員が一致することは難しいのですが、ただ、機能というところから点を配置していくみたいなことは、考え方としてはすごくいいのかなというのを思いました。

もう一つ、交通渋滞の話でずっと思うのは、何と言いますか。人にも、街にも得意なものと不得意なものは、やはりあるのだろうと思っていて。

私も大学で見ていると、苦手なもののレベルを一生懸命上げていこうとする努力と、既に得意なものを伸ばしていくと、特に大学は後者をかなり徹底的にやってもいいということになっていますが、まちにとっても同じことがあるように思います。

城下町である素晴らしさは、道の狭さと結構セットだったりするわけです。

高倉委員から、全部を一方通行にするみたいなことも一つのアイディアだという話がありましたが、そういう意味では、このエリアに来たい車の数と、捌くことのできる道路網を考えると、松本というまちの中心市街地は車の利便性に対する不満がいっぱいありますが、それを解消しにいくのは苦手なタイプの都市構造になっていて。それがまた魅力にもなっていることを考えるならば、恐らく苦手なことを少しずつ良くしていくより、徹底的にもうここにしかない、既にアドバンテージを持っているものを更に伸ばしていくというような発想で考えるというのもありなのかなというのは、今ご議論を伺っていて思ったりもしましたというのが感想です。

本当に時間が近づいてきましたが、今までの議論にプラスアルファ、ひと言ふた

言というのがございましたら、そのくらいの時間はありますが、いかがですか。

○ 伊藤 委員

今の話に少しリンクするのですが、若い人たちはスマホを持っていて、調べるのはすごく得意なので、情報を検索できるようにしてあげるのが一番だと思います。

先ほどの西口に色々なものを持っていくというようなことも、ここにあるよという情報がないから、皆さん知らないという感じがあります。

ポータルサイトではないのですが情報が検索しやすい、リアルの街の中にサインが出ているとか、全部使いながら、ここに何があるという情報を発信することが松本は弱いかなと思いますので、その辺をもう少しうまく利用できればなと思っています。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。

確かに適切な情報を届けると移動させたい方向に人を移動させられるかもしれないとか、色々な可能性があるのだらうなと思います。高倉委員、お願いします。

○ 高倉 委員

今後の話にも関わるのですが、先ほど中島先生も仰った集積化・高度化を検討する駅の周辺は、一つポイントになるかなと思うんです。

28 ページでご提示いただいた再活性に向けたコンセプトというのが一番重要で、マンションもある所にはたくさん建っているのですが、実は投資用に使われている人が多くて、人口がほとんど増えてないというのが県内の都市にもあります。

マンションは建っていますが、人は移動していないというところもありますし、高いものを建てたとしても、そこに松本の顔となる企業が来てくれればいいのですが、全国チェーン店が来る可能性もあります。今後、検討会議から、再活性に向けたコンセプトとして、こういう人たちに緩和してもいいよというところを、徹底して発信できればいいなというふうに思います。

土地利用もあるのですが、気持ちが伝わらないと松本らしさがなくなる、顔はなくなるとしますので、そこを議論させていただきたいなというふうに思います。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。

コンセプトが非常に重要だと思いますので、ぜひ2回目3回目のあたりでは重点的

に、まさにコンセプトを決めることが、この会議の非常に大きな目的だと思いますので、多くの皆様になるほどと思っていただけるような方向性、コンセプト、それが具体的な施策に繋がっていくものを、最後に出せればなというふうに思います。

最後に座長からコメントをいただいて、今日の会議はここまでにしたいというふうに思います。それでは座長、よろしくお願いします。

○ 赤羽 座長

はい、本当に色々なご意見を賜りまして、ありがとうございます。

3つほど気がついた点がございます。1つは最近の災害の多さ。

松本にとってどこが強くどこが弱いか、もし想定外の状況になったときに、19号台風の時に長野市ではあれだけの想定外のことが起きております。色々なご意見があったようですが、今回の災害もやはり想定はしておかないと、大変なダメージが出てくるのだろうというふうに思います。

また、交通に関しては、松本を通過する車がどのくらいの比率であるのか。以前は三才山から19号も通らずに市内を通過していたという経過がございます。

例で申し上げますと、山梨甲府ですと20号線で長野県から通過して東京に入るのに時間がかかりまして、高速道路もできましたが、無料の高速に近い道路が数年前に完成しております。それによって市内の混雑を開放したという事例がございます。

たまたま当社も山梨に工場がありまして、その近くに高速道路ができた。非常に便利ですし、混雑するところを通過しなくて、これだというようなことでございます。

松本マラソンを例にすると19号が松本市を遮断しているのですね。東に行きたくてもなかなか自由にはならない。こういう状況の中で、例えば、白馬や安曇野に来たお客様が松本に自由に来る、これには時間がかかっております。この辺を解決することによって、孤立する松本市が、もう少し羽ばたけるのかなという思いがします。

一番大事なのは、松本市民の方々が自慢できる松本市にならないとダメだな、先ほどもお話しがありましたが、観光に来られる方々に自信を持ってお話をできるようにしていくことであろうな、こんなふうに思っております。

海上火災のトップの方とお話する機会がありまして、私が聞くと、「松本が一番災害が少ない。だから住みたい。でも住めない。」その辺の理由は先ほど申し上げたような、いいまちだけれども、交通で自分たちが活動するときに、色々な弊害が出ているとこのようなご意見も頂戴いたしました。

世界に誇る素晴らしいアルプスを抱えているわけですから、松本市民が本当に自慢

できる、子どもさんたちを安心させられるまちづくりが、一番大事な、こんな思いをいたしました。

何卒、本当に限られた回数ではありますが、忌憚のないご意見がもっと出てくればありがたいなというふうに思います。本当にありがとうございました。

○ 山本 座長代理

赤羽座長、ありがとうございました。事務局からありましたらお願いします。

○ 事務局 石井 総合戦略室次長補佐

今後、改めて次回会議の日程調整をさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○ 山本 座長代理

ありがとうございます。

委員の皆様におかれましては、本当にまとまっていなくても構いませので、2回目3回目で議論したいというものを事務局にお寄せいただければ、議事進行を含めてセットしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上で予定された議事を全て終了いたしました。皆様のご協力で円滑に議事進行できました。お礼を申し上げます。

議事が終わりましたので進行を事務局にお返ししたいと思います。お願いします。

○ 事務局 藤井 総合戦略室次長

赤羽座長、山本座長代理、本当にありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましても、本当に貴重な意見をたくさんいただきましてありがとうございます。山本座長代理からお話がありましたとおり、個別にご意見があれば随時お寄せいただくとともに、場合によっては、私どもからも個別にご相談させていただいて、次回会議に向けて資料を調整させていただければと思いますので、よろしくお願い致します。

また、齊藤委員から、若い社会人から意見を聞くべきだというお話もありました。

ぜひ社会人をターゲットにしたワークショップについても検討してまいりたいと思いますので、そういったご意見がありましたら、よろしくお願いいたします。

それでは閉会に当たり、総合戦略局長の高野からご挨拶を申し上げます。

○ 事務局 高野 総合戦略局長

本日は、課題やポイントなど、多数のご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。座長、座長代理からもありましたが、今後、各種団体のヒアリングも含めて、委員の皆様にご相談をしながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

それでは、これをもちまして、第1回松本市中心市街地再設計検討会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。